

認定心理士の会から

どうぞお気軽にご参加ください

今は真冬の最中ですが、昨年の夏の暑さをまだご記憶の方も多いと思います。それもそのはずで、気象庁によると2024年6～8月の日本の平均気温は平年と比べて1.76度高く、1898年に統計を取り始めて以来最も暑い夏だったそうです。ちなみに一昨年の2023年も同様の暑さでした。

そうした事情もあって、私が所属する東海支部で企画しました8月の公開シンポジウムはオンラインで開催しました。「働き方の心理学」というテーマで、おかげさまで多くの方にご参加いただきました。参加者の皆様とご登壇いただきました先生方には、この場を借りて厚く御礼申し上げます（詳しい開催報告については、認定心理士の会ニューズレターをご参照ください）。

それぞれの支部が開催するシンポジウムは、地域によって、およその開催時期が決まっています。東海支部は夏（8月か9月）の開催が恒例となっています。『心理学ワールド』106号の本欄で河地庸介先生も言及されていますが、開催形式を対面とするかオンラインとするかは悩むところです。ただ、東海地方で夏に対面で開催するのは熱中症のリスクも高いため、今後はオンライン開催が慣例となっていく気がしています。コロナ禍を経てテレワーク用のワークスペースも街中に増えていますので、家では集中しづらいという方も、そうした場を活用してご参加いただく方法も考えられます。

私自身もさまざまなオンラインのイベントに参加する中で、イベントを運営される方々の工夫に触れることができ、この運営委員会の仕事に活かすことができることも多く学べたように思います。

今後も工夫を重ねてまいりますので、（オンラインでも対面でも）認定心理士の会のシンポジウムにどうぞお気軽にご参加ください。

（認定心理士の会運営委員会委員 吉田琢哉）

若手の会から

心理学若手コンソーシアム（構想中）

日本心理学会第88回大会では「心理学分野における若手の会の現状と展望」というシンポジウムを企画しました。心理学に関連する若手の組織は、20を超えます。しかし組織間の交流は乏しく、活動を知ることすらできていませんでした。そこで、若手組織の情報交換を行い、組織運営上の課題について議論する場を作りたいと思いました。

当日は、登壇者だけでなく来場者としてもさまざまな若手の会の方に来ていただくことができました。各組織は予算規模、学会との関係性、活動目的などの特徴に大きな違いがあります。その中で私たち日心若手の会は、学会関係者の皆様の手厚い支援があり、活動しやすい環境であることを再認識するとともに、これまであまり意識せずにいて驚いたのは、とにかく若い!ということでした。

超若手が若手の支援活動をするのはどのような意味があるのでしょうか。本業の研究に集中すべきという意見もあるかもしれませんが、私は「ちょっと先の未来を夢見る場」の役割を紹介したいと思っています。学会・若手だからこそできる支援は、心理学者のアイデンティティを付与し、ナナメの人脈づくりをサポートし、研究室の学生という立場を卒業した後の未来を想像する手助けをすることと思っています。そして、それは運営者にとっても同じ、もしくはそれ以上の効果があります。異なる背景をもつ同世代とともに、自由な研究やよりよい教育・研究環境を構想し、それを学会との連携の中で実装する経験は自信と実績にもなります。

日本心理学会若手の会は心理学分野で唯一の総合学会の組織であり、超若手が集まります。今後、若手研究者が力を合わせて心理学の発展に寄与していくために、他の若手の会との連携も強め、情報交換・ネットワーク構築のハブとしての機能を強化していこうと思います。（若手の会代表幹事 讃井 知）